

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 1 月 29 日作成)

小委員会名	雪荷重小委員会	主 査 名：中島 肇 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)	委員長名：塩原 等 主 査 名：高橋 徹
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建築物の設計用雪荷重の推定方法に関して、さらに精度と信頼性の高い手法を確立することを目的とする。また、建築設計時に考慮すべき雪問題や対雪設計法について情報収集・知識の体系化を図り、講習会などを通して社会に広める。</p> <p>初年度：少雪地域の大雪被害、雪荷重評価、着雪・落雪に関する対雪設計資料の取りまとめとそのシンポジウムの開催</p> <p>2 年度：より精度の高い雪荷重評価方法の検討、対雪設計技術の整理・体系化</p> <p>3 年度：「雪と建築」改訂のための資料収集および対雪設計技術の取込み</p> <p>4 年度：「(仮称) 雪と建築 2」の改訂原稿執筆、発刊と講習会の開催</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	<p>主査：中島肇 (日本大学)</p> <p>幹事：千葉隆弘 (北海道科学大学)、佐川隆之 (清水建設)</p> <p>委員：三橋博三 (東北大学)、苫米地司 (北海道科学大学)、高橋徹 (千葉大学)、富永禎秀 (新潟工科大学)、石川浩一郎 (福井大学)、喜々津仁密 (国土技術政策総合研究所)、堤拓哉 (北方建築総合研究所)、小坂橋裕一 (日建設計)、菊池浩利 (清水建設)、小竹達也 (大成建設)、大塚清敏 (大林組)、松下拓樹 (寒地土木研究所)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>対雪設計資料検討 WG： シンポジウム (2017 年度) より重要性が確認された対雪設計の資料整備を目的として、「雪と建築 (2010)」の基礎知識に加え応用編となる設計資料を刊行する。</p> <p>建築物の火山作用検討 WG： 火山の噴火と降灰にともなう建築物への積灰の影響を中心に、類似する荷重である雪荷重との整合性も考えながら、建築物の火山作用の考え方を整理する。</p>	
2020 年度予算	310,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s25/

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	2020 年度大会(関東)諸行事は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 降水量から雪荷重を直接評価する方法を次期指針の主に構成する方針とした 2. 対雪設計 WG：2017 年度シンポジウムを踏まえた課題と技術項目を纏めた 3. 火山検討 WG：積灰の影響など建築物の火山作用の考え方を目標どおりに取り纏めた
委員会活動の問題点 ・ 課題	1. 委員会の性格上地方在住者が多いため、より多くの委員の方が出席できるような zoom による開催も合わせて日程調整を心掛けたい。